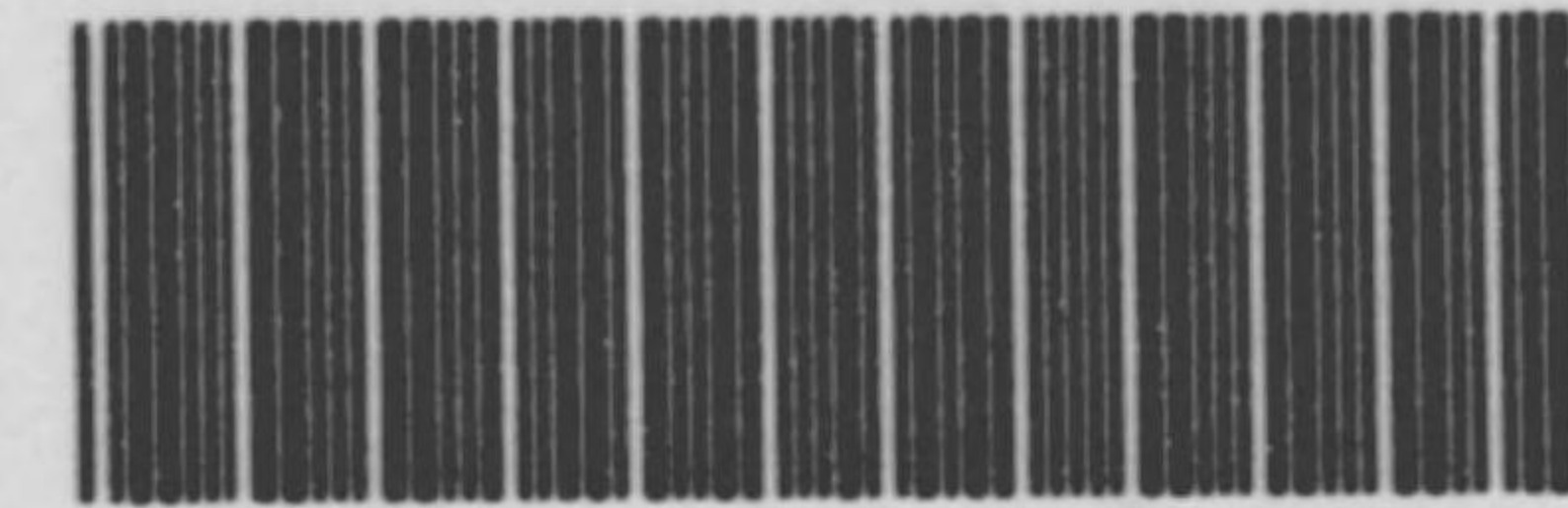


特 217

32



\* 0025383000 \*

0025383-000

特 217-32

業務要覽

東洋拓殖

昭和 7

ADF



特 217

32

辛九月刊行

# 業務要覽

東洋拓殖株式会社

3

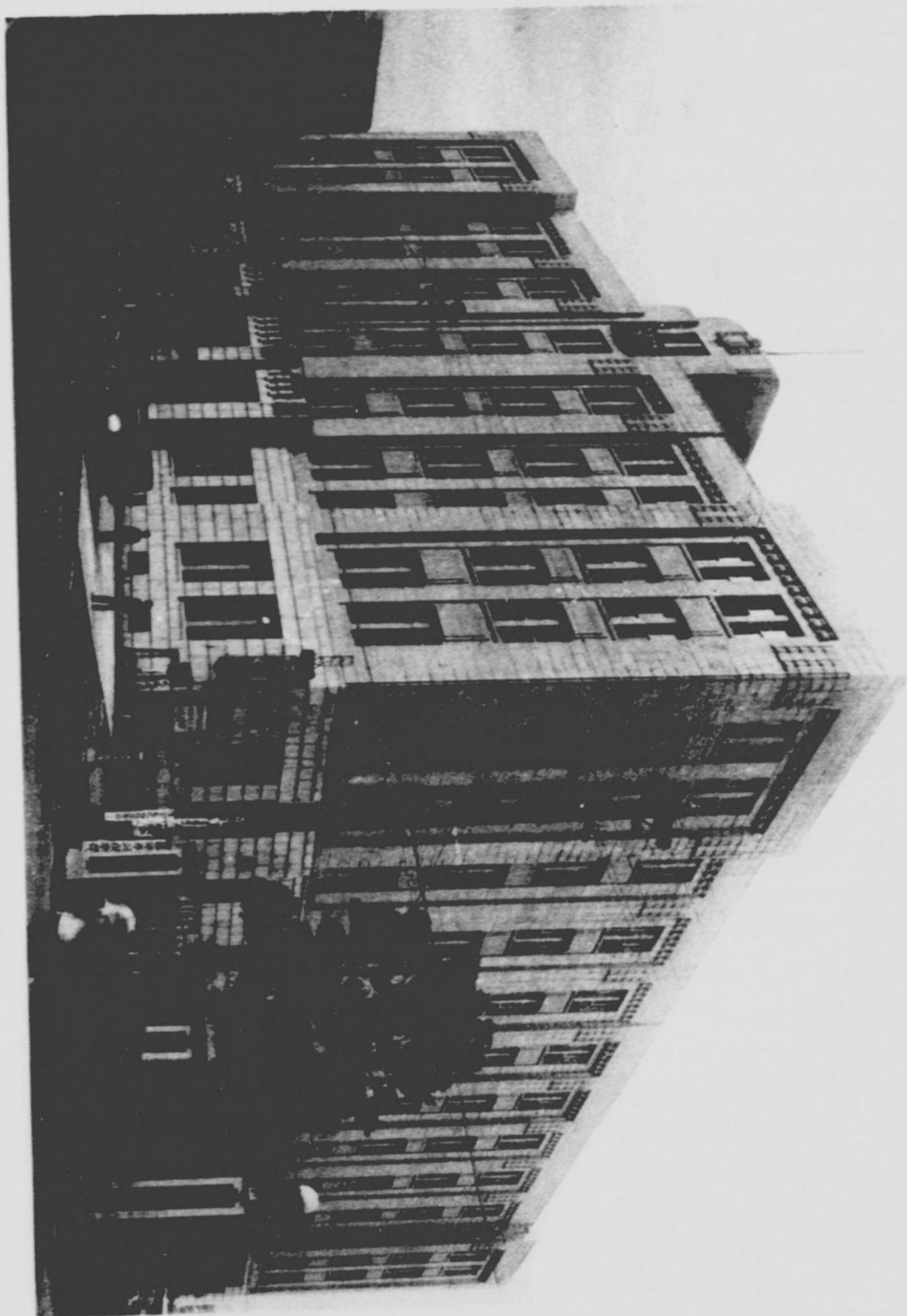
3



特 217  
32

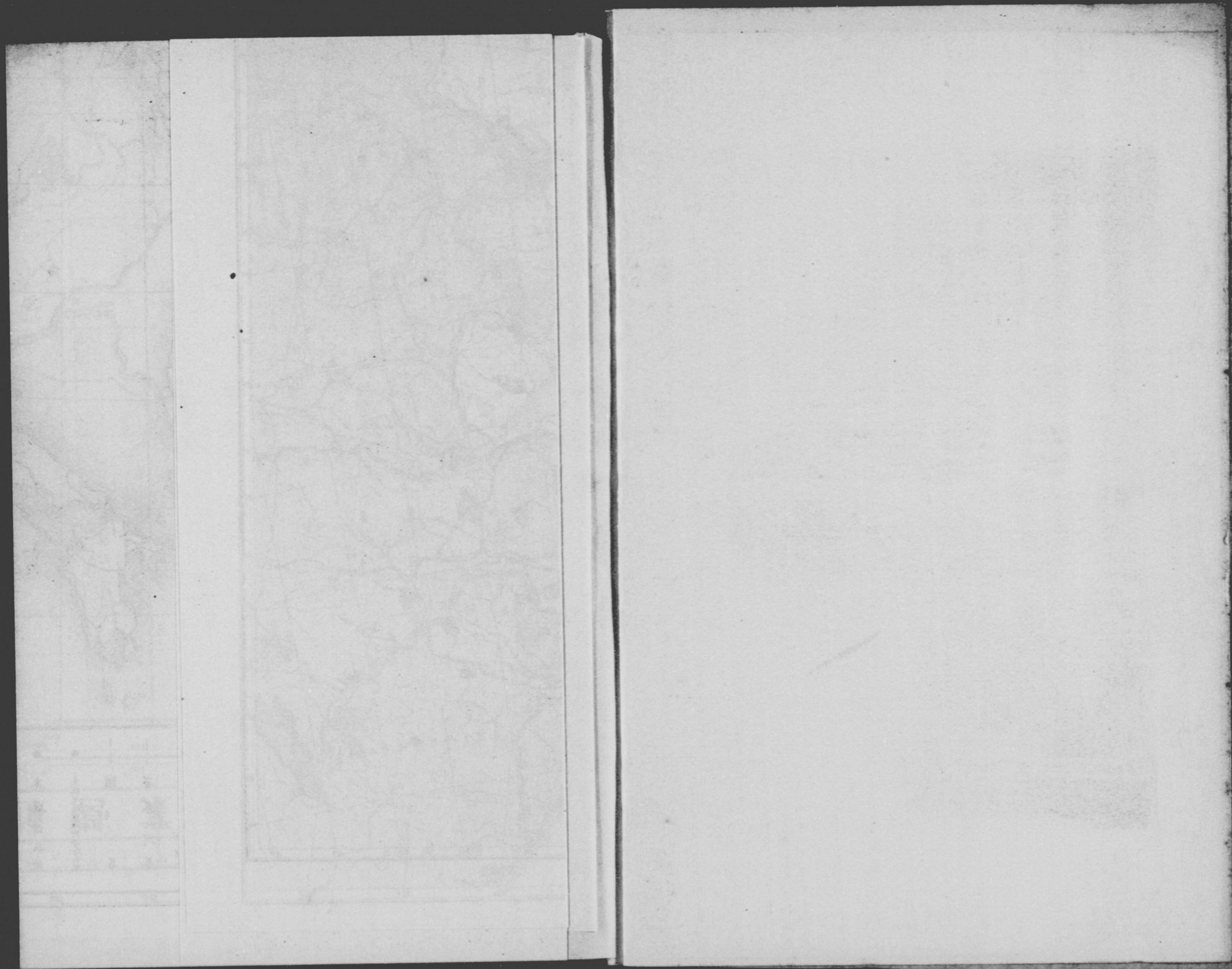
社

木



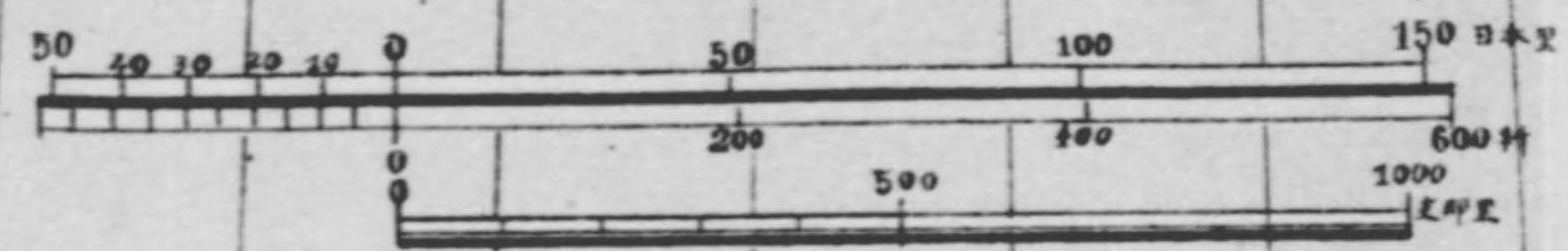
地番一丁一町下山内區町麹市京東



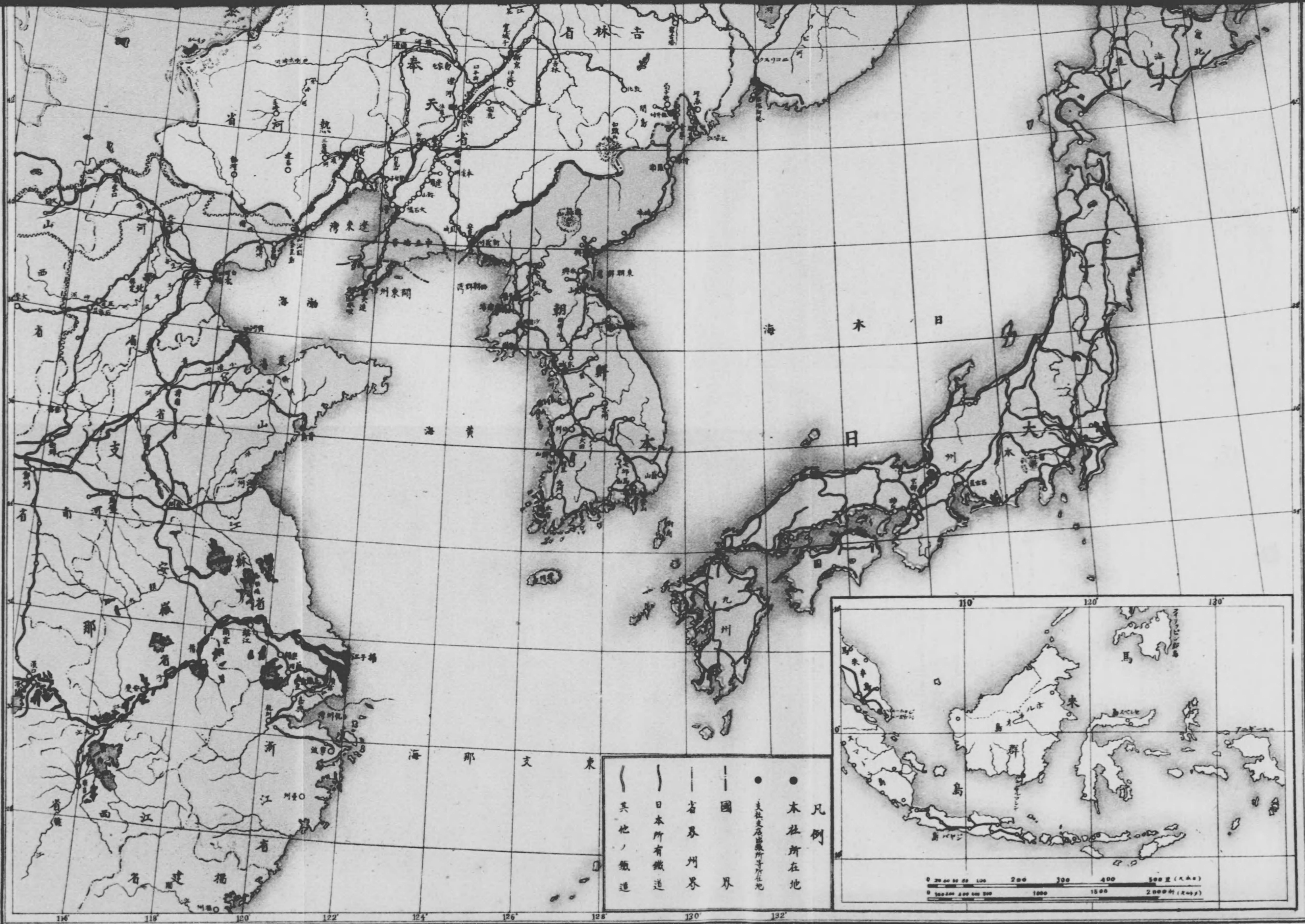




# 當社營業地域略圖









目次

概説



一、當社の創設

二、當社の資金

三、資本金

四、社債及定期預り金

五、當社の特別機能

六、營業地域

七、營業項目

八、當社の特典

一

三

四

五

五

六

發行所寄贈本





# 事業

二

## 一、金融業

- (一) 金融の概況……………七
- (二) 水利組合の資金貸付……………一六
- (三) 關係會社の株式及社債引受……………一七

## 二、直營拓殖事業

- (一) 土地の經營……………一九
- (二) 農事改良に關する施設……………二四
- (三) 山林事業……………二六
- (四) 水利開墾事業……………三〇
- (五) 殖民事業……………三三

## 三、産米増殖事業

- (六) 製鹽事業……………四二
- (七) 護謨栽培事業……………四四
- (一) 事業計劃の梗概……………四五
- (二) 事業資金及其の構成……………四六
- (三) 當社の貸付事業資金……………四七
- (四) 當社の事業……………四七

## 計算

第二十六期貸借對照表……………四九

第二十六期損益計算書……………五一

營業所所在地及管區……………五四

三



## 概 説

一、當社の創設 朝鮮は古來農を以て國本となし、又比較的平坦地多く且地味氣候等も農事に適してゐる。されば古は官に勸業司あり、堰堤司ありて貯水池を設け、淤渠を通して灌漑の便を與へ、農政の見るべきものありたるも、漸次産業施設の萎靡と共に是等堰堤淤渠等も概ね荒廢に歸したのである。

されば我政府は明治三十九年以來最も意を産業の振興に致し、勸農の機關に至りても或は水原に勸業模範場を設け、各道に種苗場を置き、或は農業學校を起して農事思想の鼓吹に努めたのであるが、更に朝鮮の開拓を促進する爲、内地より進歩したる農法と、資本を移入する機關を創設するの必要を痛感し、明治四十一年三月東洋拓殖株式會社法の制定公布となり、爰に當社の設立を見るに至つたのである。創設當時の當社は朝鮮に於ける拓殖事業經營を唯一の使命とし、爾來銳意未墾地



の開拓、水利灌漑、農事の改良、殖民及拓殖資金の供給等のことに従ひ其の開発に寄與する處ありたるが、時勢の進運四圍の状況は、當社の營業地域を舊來の儘墨守するを許さざるものありて、大正六年七月東洋拓殖株式會社法に改正を加えられ、其の範圍を朝鮮の外更に外國にまで擴張せられたのである。

斯くて朝鮮に於ける當社の拓殖業務は、一日も忽諸に附するを許さざると共に社業も益々進展を見たる爲當社は再度の増資を行ひ、又屢々社債を發行して資本の充實を圖り、農事の經營に、將又拓殖資金の供給に励めたのである。殊に多年の懸案たりし朝鮮産米増殖計劃が大正十五年より愈々實施せられたので、當社は一面本計劃に依る土地改良工事の代行機關として、他面土地及農事改良資金の供給機關として、一層その開發に努め來つたのである。近時一般財界の不況に伴ひ企業熱の衰退を來せし爲監督官廳の承認を得て土地改良工事の代行業務は、之を朝鮮土地改良會社に引繼ぐこととなつたのである。

昨年九月事變發生以來滿蒙の情勢に一大變化を來たし、急轉直下の滿洲國の出現を見るに至つた。當社は滿洲に至大の關心を持つものであるから、同國が善隣の友邦として堅實なる發達を遂ぐると共に、當社の業務並關係會社の事業の上に、一日も速に好轉の機運の到來せむことを希望して已まない。

## 二、當社の資金

(一) 資本金 當社は株式組織として明治四十一年設立當初の資本金額は一千萬圓であつたが、鮮滿經濟界の發達並社業の進展に伴ひ、増資の必要なるを認め大正七年二千萬圓とし、翌八年更に三千萬圓を増資して五千萬圓となし、内現在拂込資本金は三千五百萬圓である。

(二) 社債及定期預り金 當社の投資及貸付に要する資金の需用は逐年増加し大正二年三月第一回の東洋拓殖債券發行以來、昭和六年十二月末迄に發行回数八十回、發行總額四億三千七百三十三萬五千八百七十六圓に達し、内二億五千二



百八萬四千圓は償還済に屬し、差引昭和六年十二月末現在に於ける發行額は一億八千五百二十五萬一千八百七十六圓を算する。當社が外國に於て社債を發行する場合は、政府に於て元利支拂の保證を與へられ、大正二年第一回發行の佛貨社債、大正十四年期限前償還済、大正十二年發行の第二十五回米貨社債及昭和三年發行の第五十七回米貨社債は、何れも政府の保證により發行したる社債である。尙當社社債券所有者は當社財産に付き、他の債權者に先たち優先辨済を受くる權利を有するのであるが、之れは本邦他會社に類例なき債券所有者の特權である。

又定期預り金は昭和六年十二月末日に於て七百六十六萬三千二百六十四圓を計上し、是等の資金を運用して業務を經營するの狀況である。

### 三、當社の特別機能

當社は商法上有する一般機能の外、資金の充實に關し左の特別機能を有する。

- 一 資本増加の場合株金全額の拂込あるこゝを要しない。
- 二 拂込資本額の十倍を限り東洋拓殖債券を發行することを得。又其の債券を發行する場合に於ても株主總會の決議を要しない。

### 四、營業地域

當社は朝鮮及外國を營業地域とし、政府の認可を得て現に營業しつゝ、ある所は朝鮮、關東州、滿洲、蒙古、東部露領、亞細亞、貝加爾湖以東、支那、河北省、山東省、江蘇省、比律賓、南洋諸島及馬來半島にして、營業地域の擴張と同時に、大正六年本店を朝鮮京城より東京に移し、現に支店を釜山、大邱、裡里、木浦、大田、京城、元山、沙里院、平壤、間島、奉天、哈爾濱、大連に出張所を青島、天津に置き、上海、バンヂャルマシ、及、ミッドランド、ジヨホールには駐在員を常派して業務を執らしめ、特に京城には朝鮮支社を置き朝鮮及間島に於ける一般業務を統轄せしめてゐる。

### 五、營業項目

當社の目的は拓殖資金の供給と拓殖事業の經營である。即ち其の細目を左に掲ぐる。



- 一 拓殖の爲必要な資金の供給
  - 二 拓殖の爲必要な農業、水利事業及土地の取得、經營、處分
  - 三 拓殖の爲必要な移住民の募集及分配
  - 四 移住民の爲必要な建築物の築造、賣買及貸借
  - 五 移住民又は農業者に對し拓殖の爲必要な物品の供給及其の生産したる物品の分配
  - 六 委託に因る土地の經營及管理
  - 七 其他拓殖の爲必要な事業の經營
- 以上の外又定期預り金を爲し、且日本勸業銀行の代理貸付事務をも取扱ふのである。

### 六、當社の特典

昭和二年度に實行したる當社の整理に關聯し、政府は資金調節及收利上特別なる援助を與へらるゝが爲、昭和三年五月の臨時帝國議會に

前記外債保證案並政府持株配當免除に關する法律案を提出し、其の協賛を経て之を公布せられたので、其の結果當社は長期資金の供給上尠からざる便益を得た。又昭和二年度以降五箇年を限り政府所有の株式に對しては、政府以外の者の所有する株式に對する配當の割合よりも年五分を低下したる割合を以て配當を爲せばよいことになつてゐる。

## 事業

當社の業務を一、金融業二、直營拓殖事業三、産米増殖事業の三に分ちて以下略述する。

### 一、金融業

創業當時に於ける朝鮮は産業經濟が極度に頽廢し、諸取引も殆んど見るべきもなく、加ふるに法令制度が不備にて不動産權も亦頗る明確を缺きたるを以て、企



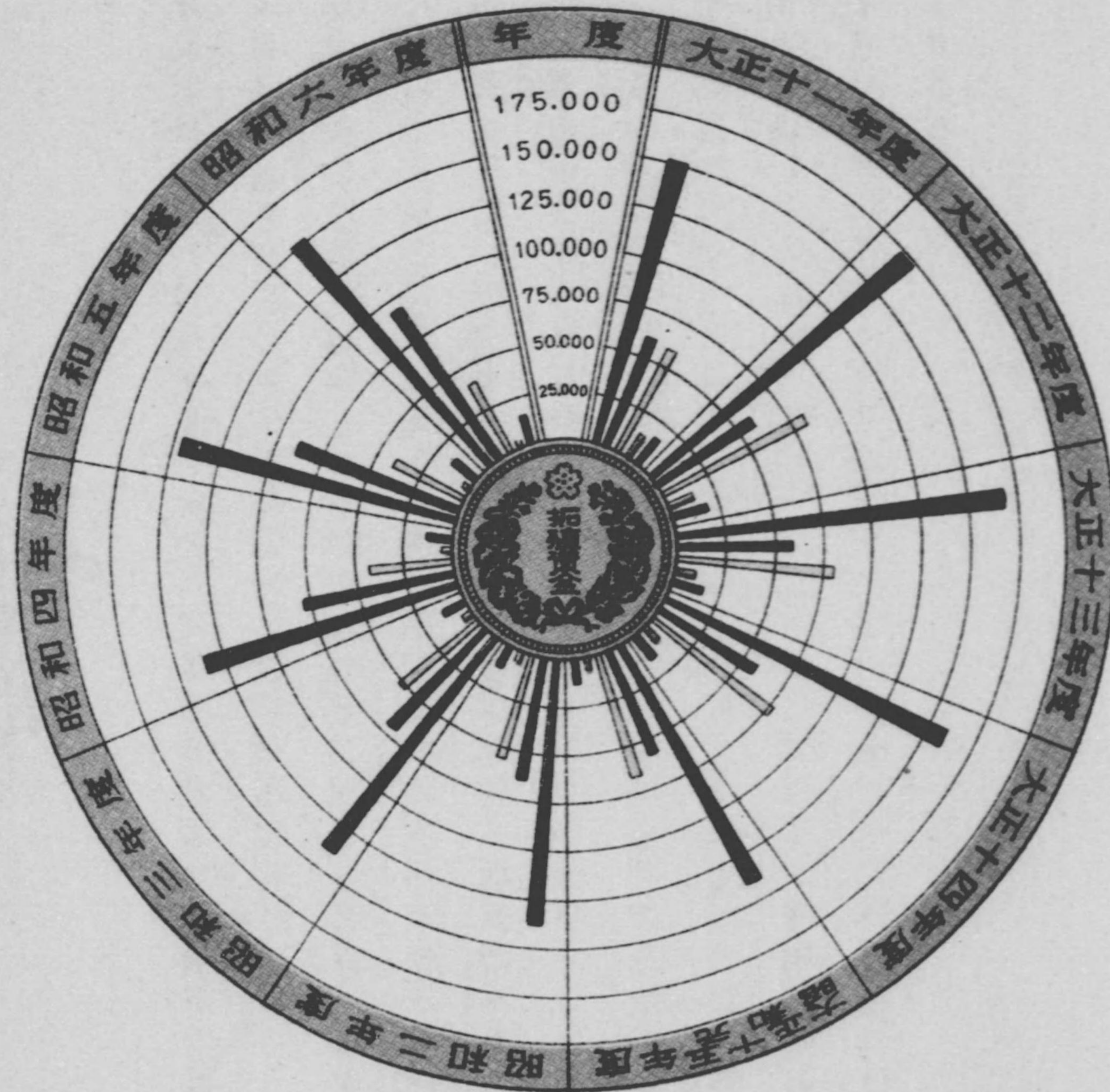
業及資金利用の誘導馴致に付ては、當社は多大の苦心と犠牲を拂つたものである。當時資金の供給は移住者に對する移住費の貸付、農業者に對する不動産若は生産物擔保貸付の範圍を出てなかつたが、爾來各種法制の確立と共に當社に於ても殖資金の普及に努力の結果、貸付範圍の擴張を要するに至り、明治四十三年四月東洋拓殖株式會社法の一部改正に依りて、公共團體又は農業者二十人以上連帶を以て債務を負ふものに對する無擔保貸付を認められたるのみならず、朝鮮農行銀行條例に依り設立された農工銀行の發行する農工債券の引受を行ふに至つたのである。其の後歐洲大戰は鮮滿の産業經濟に著しき膨脹を促し、之か爲大正六年十月東洋拓殖株式會社法は更に改正せられ、其の結果當社の營業地域は前記の如く著しき擴張を見るに至つたのであるが、此等各地方の經濟組織及法制慣行等に適應し資金の供給の方法範圍に改善を加へられたので、爾來拓殖興業の主要金融機關として今日に至つたのである。即ち現在に於ける資金供給の方法範圍は左の

通りである。

- 一、移住民に對し二十五年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依る移住費の貸付
- 二、生産者に對し其の生産物を擔保とする一年以内の貸付、此の場合に於ては手形割引の方法に依ることを得
- 三、三十年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依る不動産、鐵道、鑛業權、其の他不動産上の權利を擔保とする貸付
- 四、公共團體又は特別の法令に依り組織せられたる産業に關する組合に對し三十年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依る無擔保貸付
- 五、農業者二十人以上連帶して債務を負ふ者に對して五年以内の定期償還の方法に依る無擔保貸付
- 六、拓殖事業を營むことを目的とする會社の株券又は債券の應募引受



最近十年間  
拓殖資金供給高  
(單位千圓)



● 南洋  
● 北部支那  
○ 滿洲  
● 朝鮮  
● 總額

七、移民取扱業其他拓殖事業を営むことを目的とする會社の株券又は債券を質とする五年以内の定期償還の方法に依る貸付

八、法令の規定に依り設定したる財團其他確實なる物件を擔保とする三十年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依る貸付

右に依り資金供給の方法を大別すれば、貸付又は株式社債の應募引受の二となり、貸付金の償還方法は事情に随つて主として長期の年賦拂又は定期の一時拂に依ることゝなつてゐる。而して當社の金融は之を以て其事業を助成し、延いて地方産業經濟の發達に資せむとするを本來の使命とするものであるから、資金の用に付ては勉めて起業者の便宜に副ふのみならず、事業の計劃設計若は經營管理に付ても、其の事業の性質に依り委託又は協議に應じ、一般投資家の便宜を期して居る次第である。



(一) 金融の概況

當社金融業の概況として、各年度末に於ける供給金の現在高を示せば左表の通りである。

各年度末拓殖資金供給高

年種別	貸定期付債金還	貸年賦付債金還	引株券受債高券	合計
明治四十二年度	三三、九〇〇 円	一五、六〇〇 円	— 円	三三、九〇〇 円
明治四十三年度	四三、七〇〇	一五、三〇〇	—	五九、〇〇〇
明治四十四年度	五二、三六九	六五、三〇〇	一〇〇,〇〇〇	二、一六、七六九
明治四十五年度	九五、一四七	一、五四八、三四七	一〇〇,〇〇〇	三、四七、三四九
大正元年度	一、四三三、六六八	二、五九三、〇五一	二、〇〇〇,〇〇〇	六、三四五、七一九
大正二年度	一、六六七、六六三	三、七八三、三七七	二、三〇〇,〇〇〇	七、七五一、一八九
大正三年度	一、四四一、五九九	四、三七一、九八九	一、六〇〇,〇〇〇	七、四六三、五八七
大正四年度	一、六八七、六三二	四、五五三、六四〇	一、一〇〇,〇〇〇	六、九三九、二七一
大正五年度	四、三三〇、〇一一	八、〇五三、〇二七	三、六二七、五〇〇	一五、九九五、五三八



年度	朝鮮	滿洲	北部支那	南洋	合計
大正七年度	一四、二四九、七八四	一八、六四四、六〇二	六、四七五、五〇〇	三九、三八九、八八六	三九、三八九、八八六
大正八年度	三三、五一八、五二八	三八、四五〇、〇八三	一五、五二七、八四〇	八六、四九六、四五二	八六、四九六、四五二
大正九年度	四五、二四一、九〇七	四九、三五五、八一四	一五、四九九、三五二	一〇、〇七七、〇七三	一〇、〇七七、〇七三
大正十年度	六二、四四六、七四九	五五、五九六、八五八	二三、八三八、四九八	一三九、八八二、一〇五	一三九、八八二、一〇五
大正十一年度	六八、九二二、〇四一	五七、八八三、九九八	二四、二二二、一四三	一五〇、九一九、二八二	一五〇、九一九、二八二
大正十二年度	九一、三五五、三六五	六〇、六八一、六六四	二二、七〇、七七三	一七三、六九七、八〇二	一七三、六九七、八〇二
大正十三年度	九〇、〇二六、九四六	五八、六二二、三六五	一九、二七二、七二〇	一六七、九九二、〇三二	一六七、九九二、〇三二
大正十四年度	八四、五四八、二四四	五八、二四六、八四五	一八、七三三、四一八	一六一、五三三、五〇七	一六一、五三三、五〇七
大正十五年度	六九、五九九、四七七	五七、三二二、三五三	一四、四七三、三四〇	一四一、三九四、一五〇	一四一、三九四、一五〇
昭和元年度	五八、五〇、七二二	六三、七四四、九二四	一五、一九一、六七九	一三七、四二七、三二四	一三七、四二七、三二四
昭和二年度	五九、八八八、三〇〇	六五、一八六、六七七	一四、三三二、四七四	一三九、三〇七、四二二	一三九、三〇七、四二二
昭和三年度	五九、四七、六〇〇	七〇、四六、〇八二	一三、五〇〇、四三九	一三七、六三三、四三九	一三七、六三三、四三九
昭和四年度	五二、四七四、〇四八	八〇、八三、八九九	一四、三九九、八〇〇	一四六、六八七、七三七	一四六、六八七、七三七
昭和五年度	四七、一六四、二四三	八九、五二五、三六二	一四、四七六、六三八	一五一、一五八、二四三	一五一、一五八、二四三

又最近十箇年の各年度末に於ける拓殖資金の供給高を地域別にして左に表示する。

年度	朝鮮	滿洲	北部支那	南洋	合計
大正十一年度	六、四八一、五九九	五九、四〇三、九八五	一三、七九六、九四〇	一六、二二六、六九八	一五〇、九一九、八三二
大正十二年度	五九、六七三、七三三	八一、九六〇、二四二	一三、五四四、五三〇	一八、五一九、七七八	一七三、六九七、八〇二
大正十三年度	五九、七三三、七五〇	七九、三七八、三三二	一一、一五一、八二二	一七、七〇八、三三九	一六七、九九二、〇三二
大正十四年度	六〇、三〇六、〇九九	七六、四四六、六八一	八、六六四、九〇一	一六、一五五、八六六	一六一、五三三、五〇七
大正十五年度	五八、二九八、一五〇	六三、二五一、八五七	四、八三三、三九九	一三、〇二〇、七九四	一四一、三九四、一五〇
昭和元年度	五三、三三一、三三〇	五五、六二九、八八九	四、六〇七、五九九	一一、八〇八、三三六	一三七、四二七、三二四
昭和二年度	七〇、六三三、四四八	五二、七六四、三〇四	四、二五七、八七八	二二、六四一、七七二	一三九、三〇七、四二二
昭和三年度	七〇、六三三、四四八	四二、九二四、一二二	三、九五六、二二〇	一三、三三〇、七三五	一三七、一六三、四九九
昭和四年度	八六、〇二四、〇二四	四一、一五五、〇三七	三、六二四、二二四	一五、九三四、五六二	一四六、六八七、七三七
昭和五年度	九二、八三二、四〇七	四〇、七七八、一〇二	三、三〇〇、八五八	一五、二六六、七七六	一五一、一五八、二四三

尙最近五箇年の各年度末に於ける年賦償還及定期償還貸付金高を地域別及用途別に各表示すれば次の通りである。

最近五箇年貸付金地域別現在高 (單位千圓)











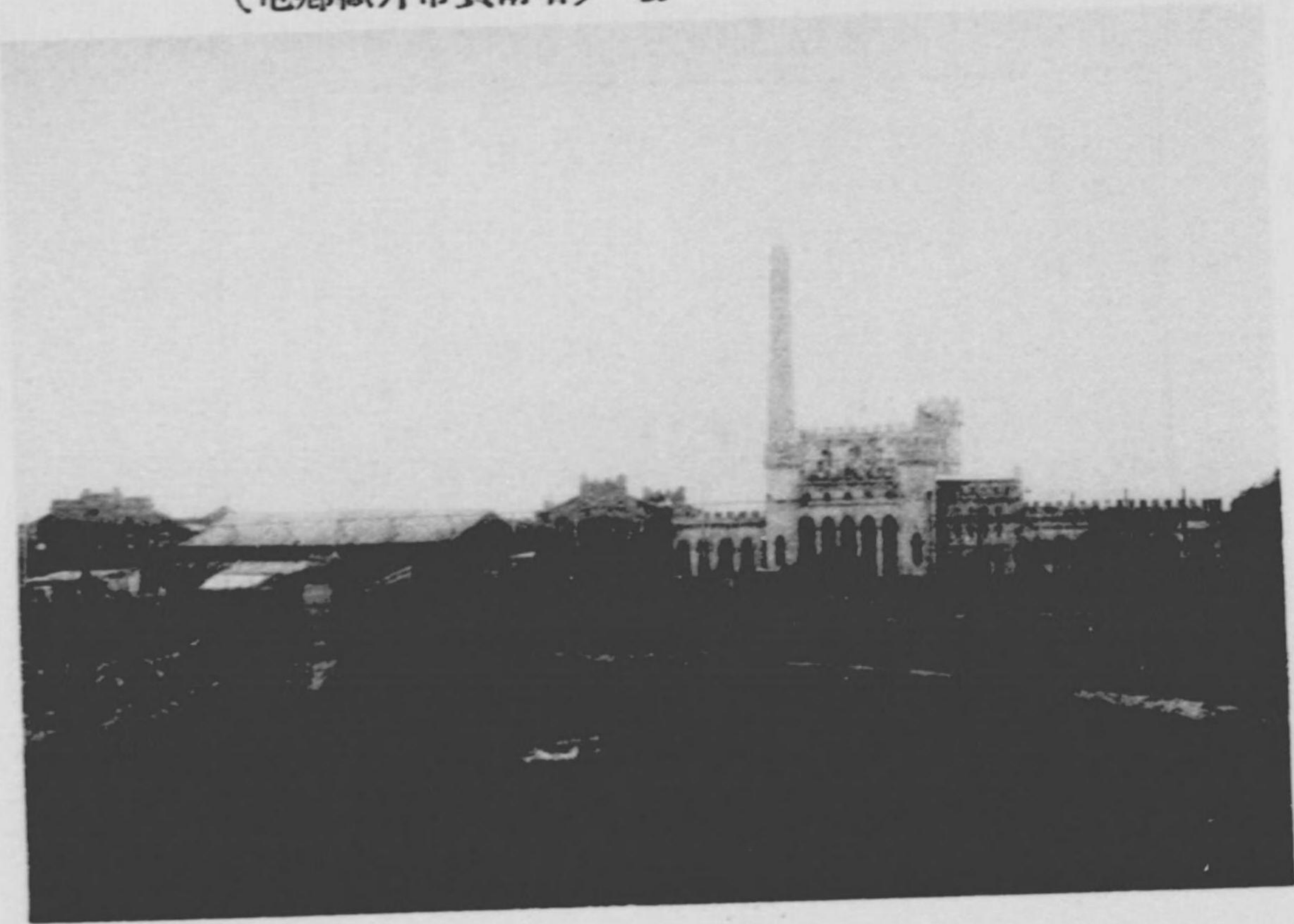
安寧水利組合	黃海道載寧、安岳郡	九、七七五町步
大正水利組合	平安北道龍川郡	一、〇九三町步
平安水利組合	平安南道大同、平原郡	四、五五六町步
古阜水利組合	全羅北道高敞郡	四、三二三町步
舒川水利組合	忠清南道舒川郡	三、五〇〇町步
博川水利組合	平安北道博川郡	二、五七八町步
靈光水利組合	全羅南道靈光郡	二、六〇〇町步
下南水利組合	慶尙南道密陽郡	一、八七八町步

(三) 關係會社の株式及社債引受

當社が株式を引受けたる關係會社は、昭和六年十二月末現在に於て海外興業株式會社外二十五社にて、其の引受株數四十八萬三千六百四十一株、拂込金額は一千三百八萬四千六百六十一圓である。又社債の引受高は六社にて六百五十七萬圓



(屯鄉顧外市賓爾哈) 場工司公精酒和昭



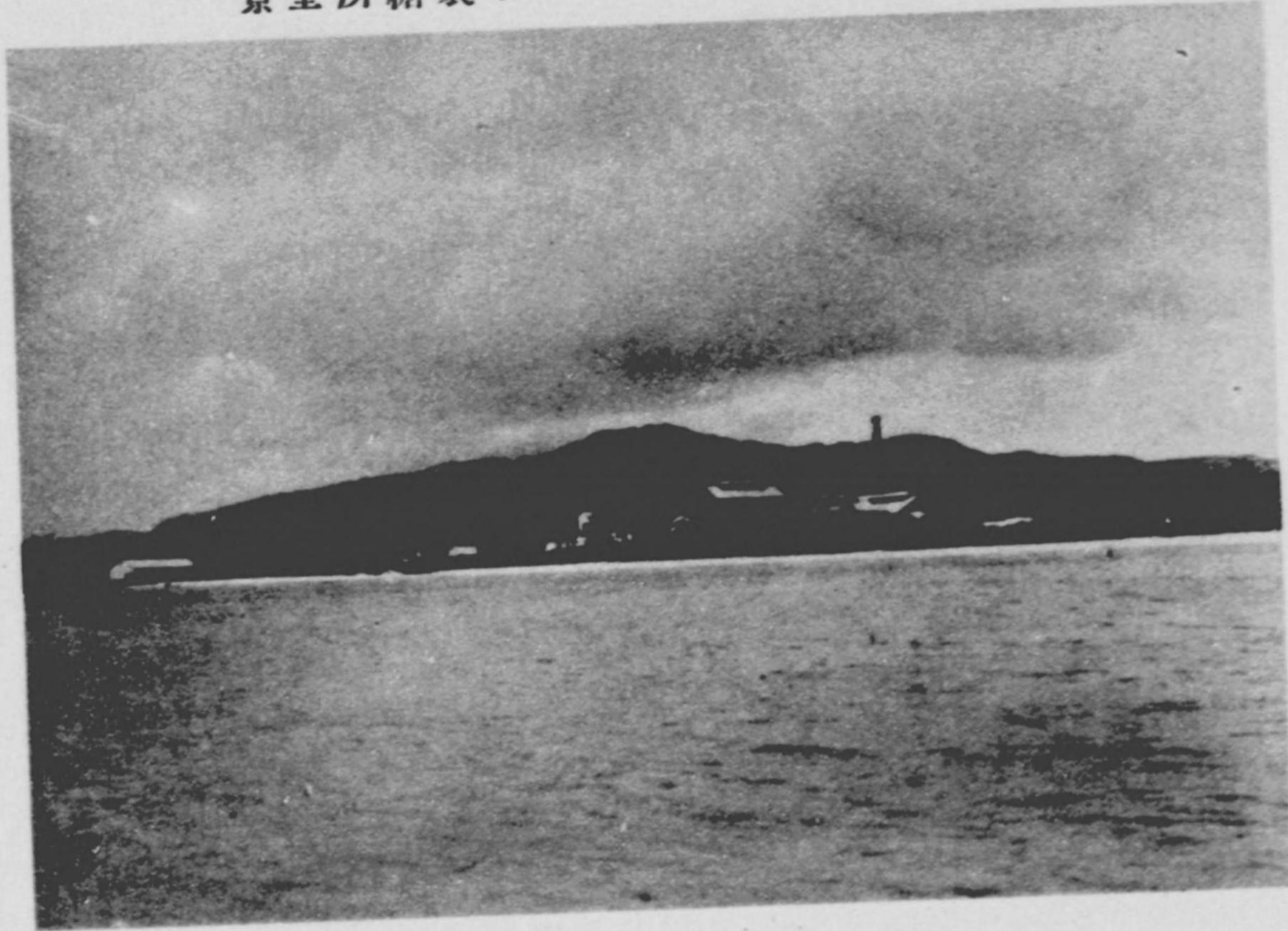
(屯姑皇外市天奉) 室布織場工社會株式會社滿蒙毛織

業務別區分	會社數	引受株數	拂込金額	會社數	社債引受高
海外拓殖事業	一	二七、一八九	八八三、六四二	一	二、五〇〇、〇〇〇
金融業	二	五〇、一五九	一、九四八、八三二	二	二、二五〇、〇〇〇
電氣業	一	六三、五八八	一、三三五、五七七	一	四五〇、〇〇〇
畜産業	一	三、三〇〇	一四三、〇〇〇	一	三七〇、〇〇〇
製造業	五	一三、〇一九	四、七二九、四九一	一	一、〇〇〇、〇〇〇
土地建物經營業	五	六七、六〇〇	一、二八六、七五〇	一	
農業	二	三、八〇〇	一、〇一八、二二二	一	
鐵道業	一	一一、四九六	一、四八九、九六〇	一	
倉庫業	二	一九、六五〇	二四五、六五五	一	
鑛業	一	五、〇〇〇	一一二、五〇〇	一	
雜業	一	九〇〇	一一、二五〇	一	
合計	二六	四八三、六四二	二三、〇八四、六六一	六	六、五七〇、〇〇〇

に達してゐる。左に之を業務別にて示すこゝにする。



南洋興發株式會社パイナップル製糖所全景



パイナップル島蔗園



## 二、直營拓殖事業

直營拓殖事業は(一)土地の經營(二)農事改良に關する事業(三)山林事業(四)水利開墾事業(五)殖民事業(六)製鹽事業(七)護謨栽培事業である。以下項を分ちて其の概要を述べることにする。

### (一) 土地の經營

當社所有の事業用土地面積は、田四萬六千三百六十七町步、畑一萬九千九百九町步、宅地七百十九町步、山林二千三百七十二町步、雜種地三千八十三町步、合計七萬二千四百五十町步にて、内間島に在るもの四千四百八十六町步を除けば、爾餘の六萬七千九百六十四町步は總て朝鮮内に在るものである。其の内一萬百六十六町步は移住民に對する割當地又は其の他の讓渡地にて目下年賦拂込の途中にあるが他の大部分は凡て當社直接指導の下に小作に附してゐる。



當社の朝鮮に於ける農事經營は明治四十二年の創始に係る。當時朝鮮の農業は極めて幼稚にて、撰種施肥灌漑等の方法などは殆んど顧みられず、爲に收穫は漸減し、或は旱水害を蒙むること甚しき狀況であつたから、當社は政府當局の方針に遵ひ、朝鮮農事經營の先驅として社有地の經營及農事改良に著手したのである。

創業時代の管理方法は各地劃一の制であつたが、諸般の施設の進歩に伴ひ、小作農は漸次農事改良の氣風に向ひたるを以て、十年許このかた其の制を改め、小作人の自治心を本位として土地の狀況に適合する管理法を講じ、又小作地の集團せる地方には特に社員を駐在せしめ、集約的に指導し、或は社員をして常時巡回指導を爲さしめる等、會社對小作人の關係を親密にして情誼を温め、共存共榮の趣旨に依り小作人の福利を増進しつゝあるのである。

**小作契約** 小作契約に方りては直接小作人と面接し、書面を以て契約を締結して小作條件を明にし、小作面積は小作人の耕作能力と地味の肥瘠等を勘考し、自作

し得る程度に於て之を配賦することとし、中間小作の弊習を矯め、又小作慣行の改善に資してゐる。

**收穫分配** 收穫分配の方法に付ては、一般に收穫を折半とする打租又は檢見に依れるも、當社は農事改良、土地生産力の増進及小作人の勤勉を促し、其の收入の増加を圖る方法として、年々定額を納むる定租に依るを適當と認め、大正五年以來一般地主に率先し、旱水害の虞少く且豊凶の差甚しからざる土地は之を定租とし、年々災害多く收穫不定の土地は之を執租とし、秋收期に於て檢見に依り小作料を定むることとした。尙定租は定額の小作料を收納すべきものなるも、甚しき災害を受け收穫激減せりと認めたるときは、其の被害の程度に應じ特に之を減免し、小作人の困難するが如きことなき様にしてゐる。最近に於ける定租地面積は三萬二千二百六十八町歩にて執租地面積は二萬八百六十一町歩である。

最近五箇年に於ける小作料收納額は、定租と執租とを合算して左の通りである



種類	年別	
	昭和二年度	昭和三年度
穀類	三〇、九四四石	二五四、三六八石
大豆	八、五八二	七、六四〇
雑穀	七、八九四	七、三〇〇
玄米	四、六六三	三、一五二
棉花	二九、〇四〇斤	二九、一六四斤
金納	二二、九六六	一四七、六六六
穀類	二七五、三六八石	二七五、三六八石
大豆	六、六〇四	七、四四〇
雑穀	七、五九二	八、〇四二
玄米	八、三〇〇	四、三九二
棉花	三、一四〇斤	四、五七八斤
金納	三九、〇五〇	一四一、八二三
穀類	三五六、六六七石	三五六、六六七石
大豆	七、五七七	七、五七七
雑穀	七、七三四	七、七三四
玄米	一、四〇八	一、四〇八
棉花	三三、三七四斤	三三、三七四斤
金納	八六、九九九	八六、九九九

保護施設 當社の小作に對する保護施設の主なものは(イ)食糧の貸付(ロ)農家子弟の奨學(ハ)衛生及慰安(ニ)新部落の創設(ホ)優良小作稷の表彰(ヘ)農業倉庫の設置等である。

(イ)食糧の貸付 小作人中には、舊正月を過ぐれば早くも食糧の不足を來し、高利の食糧米を借入るゝを例とするものなどありて、之が爲めに農業能率を減殺されること少からざるに付き、當社は此等のものに對し食糧として、穀又は粟等を低利

にて貸付くることにしてゐる。

(ロ)農家子弟の奨學 篤農小作人の子弟にして家計不如意の爲、上級實業學校に入るを得ざるものに對しては、奨學資金を支給し、或は普通學校兒童中成績優良なるものに對しては、金品を授與して之を表彰してゐる。

(ハ)衛生及慰安 保健の目的を以て小作人集團の部落には、飲料井戸の掘鑿を爲し、或は簡單なる醫療機械及藥品を備付けて、應急手當に便し、又農村に於て活動寫眞を催ふし、或は蓄音機を廻付する等慰安の途も講ずることにしてゐる。

(ニ)新部落の創設 農家稀少にして自然耕作の粗笨に流れ易き地方には、建築材料費を補助して住家を建築せしめ、篤農小作人の子弟を分家移住せしめ、新部落を構成せしめてゐる。

(ホ)優良小作稷の表彰 小作稷(小作人組合)中稷員能く一致團結して當社の指導に遵ひ、成績良好且能く當社に對する義務を盡し、他稷の模範たるものを選抜し、特



小作人集合苗代 (京支店管内清涼里)



移住民へのベリヤツ耕作 (京支店管内仁倉里)

に賞品を授與し之を表彰してゐる。

(一) 農業倉庫の設置 社有倉庫の一部を利用して農業倉庫業務を開始し、移住民及小作人の生産物に對し金融の便を圖つてゐる。

## (二) 農事改良に關する施設

農事改良は土地改良と相俟つて生産力を増進する所以であるから、當社は創業以來力を此に致し、改良種子の普及、金肥の配給、農具の貸付、耕作法の指導等をなし、逐年好成绩を擧げてゐる。其の改良事項を概述すれば左の通りである。

深耕法の奨励 淺耕の習慣ある朝鮮に於て地力を充分に利用するが爲には、其の土質に應じ深耕法を行へば著しく收穫を増進するから、當社は各地に深耕講習會又は競犁會を催ふし、其の技術を習得せしめ、或は改良犁を補給し、或は之を指定してその使用を奨励せる結果、近時急速なる普及を見るに至つたのである。

米種の改良 社有水田に對する改良種の普及並品種の改良に就ては、先づ原種



田の經營に依りて純系種子を生産し、更に採種田を設置して其の生産額を毎年小作人に配付し、累年其の改良に努力せし結果、改良種栽培面積は三萬四千七百四十町歩に達し、京城以南に於ては社有水田に對し實に十割といふ好成绩を示してゐる。

正條植 收穫増加、農業能率の増進並混種を防ぐ爲に、正條植の實行に對し條繩を補給し、指導獎勵の結果、逐年其の面積を増加し、大に効果を收めてゐる。

金肥の配給 産米増殖の目的を以て創業以來金肥使用獎勵の方針を執り、豆粕、過磷酸石灰、米糠、硫酸アンモニヤ、其の他の金肥を無料で給與し、或は又低利を以て貸付けてゐるが、其の年額は概ね百萬圓を超え、鮮農は漸次施肥の必要を自覺し、來り需要も逐年増加してゐる。更に總督府の産米増殖計劃に依り、低利の肥料資金を貸付するから、向後一層急速に普及することであらう。

綠肥栽培及堆肥の増成 金肥の使用を獎勵する外、地力を養ふ爲に堆肥、綠肥を



施用するを要するので、之が爲に當社は堆肥増成の方法を指導すると共に紫雲英、青刈大豆、ヘヤリベツチ等の綠肥種子を配付して之が栽培を奨励し、相當効果を擧げてゐる。

**玄米收納** 生産粳を玄米に調製せしむることは、舊に農家の經濟に資するのみならず、稻作改良上、忽諸に付すべからざる作業である。當社は小作人に對し、玄米調製機具を補給し、其の調製方法を指導し、玄米を小作料として納付せしめ、昨年の收納高は一千四百餘石である。而して朝鮮に於て玄米を以て小作料を納付せしめたのは、當社の創めたことであるが、將來益々奨励の方針である。

**貸付物品** 農事改良、副業奨励の目的を以て、小作人に對し、種子(粳、大豆、紫雲英等)穀物(粳、雜穀)農具(犁、水車、製糶器、稻扱器、豆粕削器、發動機、唐箕、除草器、糶摺機)等を貸付し、其の金額は年々約二十數萬圓に達してゐる。

**指導部落** 社有地の集團せる地方を指定して、種子の改良、深耕、正條植、玄米調製

等各般の改良施設を的確に施行せしめ、社員及移住民中の篤農者をして實地指導の任に當らしめ、著々其の實績を收めてゐる。

**品評會** 小作人の農産品或は苗代或は多收穫に關する品評會を開催し、其の比較對照を一目瞭然たらしめ、成績優良なるものには褒賞を與へて之を激勵してゐる。

**農事講習** 小作人の農事思想を涵養する方法として、各所に技術員を派遣し、巡回講話を爲さしめ、小作人の農事改良及勤勉力行の美風を助長することに努めてゐる。

**指導員** 前記各般の改良指導は、當社員をして親しく之に當らしむるも、尙之を充分に會得し、實行せしむる爲に、當社移住民中優秀なるものを選び、殖産指導員となし、小作人に對し、日常接觸し、間斷なき指導をなさしむることゝせし、之が爲著しく施設を促進することを得たのである。



(三) 山林事業

朝鮮に於ける山野の荒廢は、延いて水源を枯渴し或は土砂を流下し、農業上に悪影響を與ふるのみならず、木材又は燃料等産業各般に著しき障礙を醸してゐる。之が匡救は造林事業に俟つの外はないが、而かも造林事業たるや所謂百年の大計にして、其の經營は收利に急なる事業家の企及し得べき所でないから、當社は夙に治山治水の根本義に著眼し、明治四十三年黃海道に於て造林事業に着手せし以來或は國有林野を借受け又は讓渡を受け或は民有林を買收し、遮樹を適地に植栽し若は天然稚樹を選択保育し、更に合理的經營の目的を以て大正八年以後順次施業案の編成に著手し、之に基き經營を爲しつゝあるのである。

山林經營面積 當社最近の山林經營面積は十一萬四千二十二町歩にて、年々千町歩内外に對し「アカマツ」「クロマツ」「カラマツ」等を新植し、其の活著頗る良好にて相當成林を爲せるものがある。左に昭和六年十二月末現在に於ける經營面積を

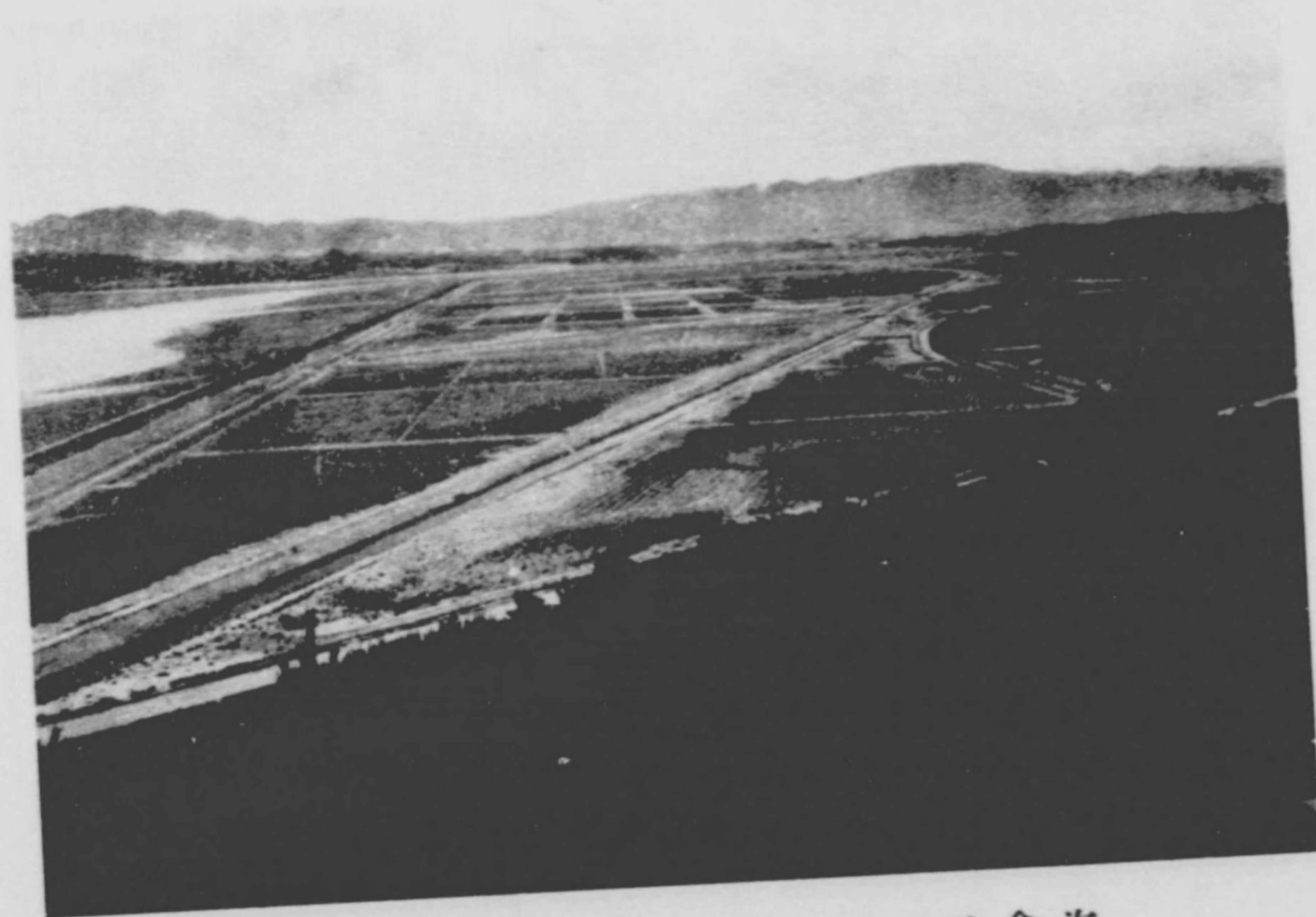
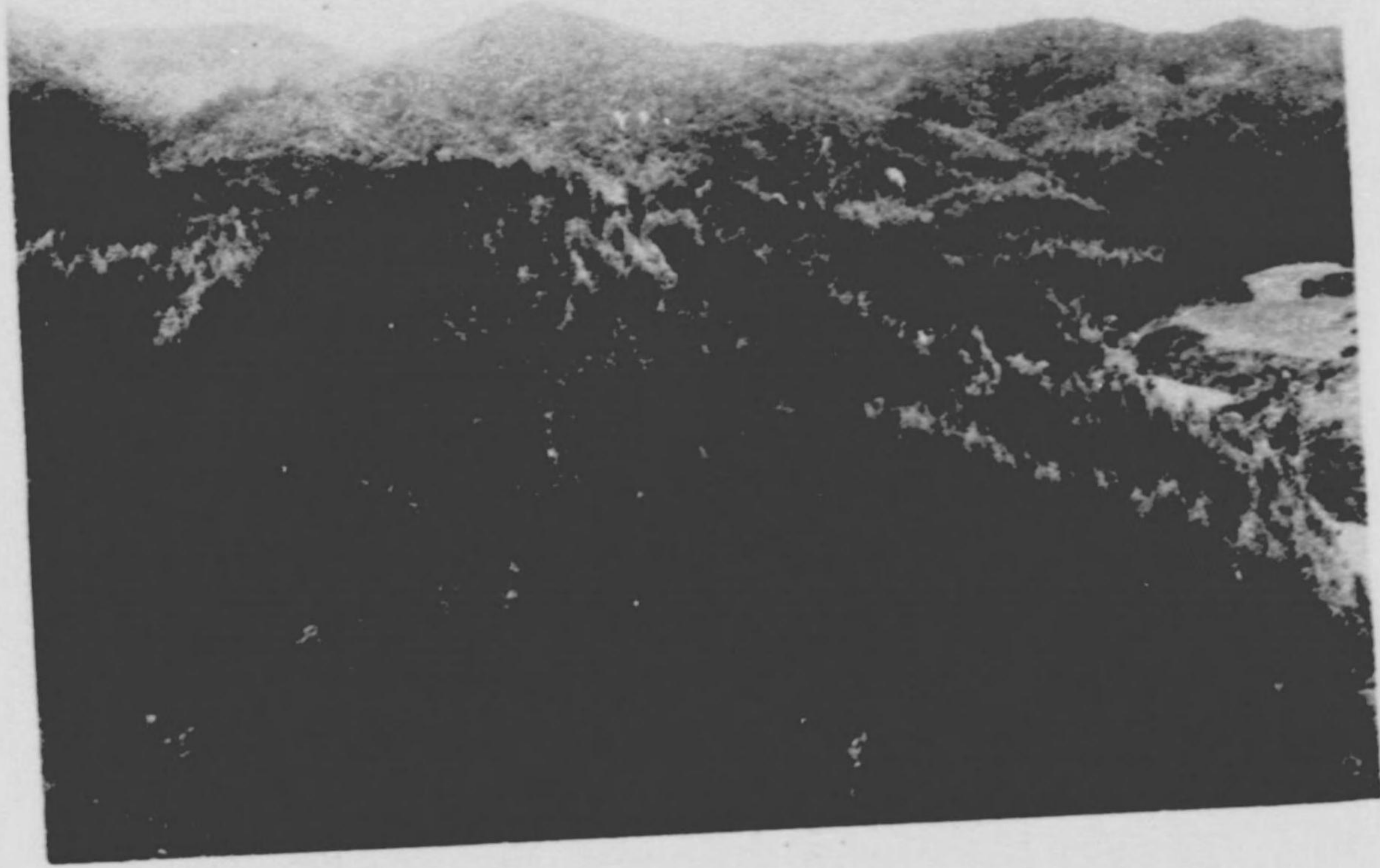
掲ぐる。

道別	國有林野借受地	國有林讓受地	買收林地	計
京畿道	三、五〇九四	二七、五四	一五、三四七八	一八、七五三三
慶尙南道	—	—	三五七四五	三五七四五
黃海道	三、七九六八	一三、八七三四	一、五〇六五	一九、一七四六
江原道	六、四〇二二	二九〇三四	一、九八五九	八、六九〇四
咸鏡南道	一四、七五三七	一七、九二二〇	一、三四八七	三四、〇一八六
咸鏡北道	六七〇三	—	三二、三七九八	三二、九八〇二
合計	二六、八二三四	三三、三五三四	五二、八五七一	二四、〇三九五

管理及保護 管理及保護の方法としては朝鮮支社直營の下に各樞要地點に社員を駐在せしめ、又山林監視四十二名を常置して一定地域の管理、經營、保護及取締の任に當らしむる外、林野の保護は地元部落民の協力に俟つべきこと多きを以て特に地方有力者に山監を囑託して山林監視の補助者たらしめ、又地方部落民と保



（郡源徳道南鏡咸鮮朝）地林造ツマラカ



（内管店支浦木）景全地拓千倉海

三〇  
護契約を締結して下草、枯枝等を與へ林地の手入保護を爲さしむる等、兩々相俟つて管理の周到を期すると共に、之が保護の念慮を喚起するに努め模範的に効果を收めてゐる。

竹林事業 南鮮地方は氣候温暖にて竹の生育に適し、往時は所在竹林に富み、現に文祿の役には竹束を作り矢玉防止の方法とせし實例もあるが、爾來漸次荒廢してまた昔日の觀なきに至つたのである。故に當社は竹林經營の範を示さんが爲に、明治四十五年以來慶尙南道と全羅南道との道界たる蟾津江及洛東江沿岸の地を相して竹林の保育及新植を試み、其の成林を見つゝあるが、昭和六年十二月末現在の經營面積は三百四十一町餘歩である。

#### （四）水利開墾事業

朝鮮は土地肥沃にて緯度も亦内地本州と大差なく、加ふるに溫濕適度、天與の農耕地である。けれども水利の施設甚だ備はらず、可惜沃土も其の効用を發揮する



能はざる現状であつたから、當社は創業の當初より率先して其の水利開墾及干拓等の事業に着手して天與の惠澤を空しうせざることに努め、企業者に對しては之に必要な資金を供給し、或は技術上の調査設計の委託に應じ之が助長に貢献して來たのである。

開墾干拓の直營 當社の直營せる開墾干拓事業を左に掲ぐる。

(イ) 當社直營の下に施行せし開墾干拓工事の中既に竣成せしものは

京畿道高陽郡蘇島面長安坪	開墾	四百二十九町步
京畿道高陽郡崇仁面	同	十六町步
全羅北道益山郡望城面羅岩里	同	百四十五町步
全羅南道羅州郡旺谷面	干拓	十三町步
全羅南道珍島郡義新面	同	六十六町步
全羅南道靈岩郡西面海倉	同	六十二町步



平安南道龍岡郡瑞和面	開墾	百二十四町步
咸鏡南道高原郡下鉢面	同	十三町步
慶尙南道金海郡駕洛面	同	二十九町步
(ロ) 同じく目下施行中に屬するものは		
全羅南道務安郡一老面自防浦	開墾	二百四十町步

にて大正八年六月著手既に第一期工事を完了し、目下第二期工事の施行中に屬する。其の他干拓工事にして施行豫定のもは三箇所、其の面積は二千七百六十八町步である。

水利事業の直營 當社直營の下に水利事業を完成せしものは、平安北道龜城、泰川の兩郡に跨がれる大寧江流域の耕地面積約一千町步に對する灌溉改良工事にて、大正二年五月著手、五年十月工を竣つた。爾來地主より用水料を收納して之を利用せしめたが、大正十四年十一月之を水利組合組織に變更し、當社の水利權を同

組合に讓渡した。

社有地の水利事業 當社所有地中既に水利事業を完成せしものは、昭和六年十二月末現在に於て百二十八箇所、蒙利面積九千九百九十二町步である。

計劃中の事業 當社が他の地主と協議を遂げ、水利組合の成立計劃中に屬するものは、昭和六年十二月末現在にて四箇所、其の蒙利面積一萬一千六百餘町步である。

### (五) 殖民事業

朝鮮に於ける當社の殖民事業は、明治四十三年第一回の移住民を募集したるを嚆矢とする。爾來年々募集をなし、昭和二年度迄に十七回に亘りて之を收容し、現在に於ては三千九百餘戸を算し、十一道に分布してゐる。此等の移住農民は半島農事開發の先驅となつて、朝鮮農民を指導誘掖し、又内鮮人融和同化の模範を示し、或は經濟的に相結合して名實俱に親善の端緒を開き、過去二十餘年間に亘り其の



使命に従ひ、著々好成績を挙げつゝあるのである。

移住民の種類 當社の收容せる移住民は土地代金年賦完済後土地所有權を得て地主たるを得べく、其の農地經營の方法並面積の多少に依り、之を第一種及第二種に區別する。

第一種移住民 第一回以後大正十年迄に募集したるものにて、田畑約二町歩を割當て、其の土地代金に年利六分を附し二十五年以内に年賦償還を爲さしむるものにて、割當地全部を自作する自作移住民である。

第二種移住民 大正十一年以後に募集したるものにて、田畑約五町歩を割當て土地引渡と同時に土地代金の四分の一以上を拂込ましめ、其の殘額に對しては年利七分を附し二十五年以内に年賦償還を爲さしむるもので、割當地の内一町歩以内を自作し兩餘を小作に附する地主移住民である。

移住民の資格 成年の男子にして身體強健能く勞働に耐え、家族を携へ朝鮮に

永住土著する決心固く、移住に必要な相當の資産を有し、農事上の教育を受け又は經驗に富み、且朝鮮農村の中心となつて鮮人を輔導誘掖し得るものたることを要する。

讓渡地 讓渡地は總べて既墾の社有地であるから、直に集約農耕を行ふに於ては數年ならずして内地にも劣らざる收穫を擧げ得べき土地である。其の讓渡價格は交通の便否、環境の状態、地味の肥瘠等に依り異なるも、凡そ田は一反歩六十圓乃至百七十圓、畑地は其の約半額である。田の收穫は普通反當り粃一石四、五斗にて南鮮地方は二毛作に適し、畑の收穫は大麥一石二、三斗、大豆七、八斗を普通とするけれども諸種の改良を加ふれば收穫を倍加することは容易にて、現に各所に開催せる當社移住民の多收穫品評會に於ては平均反當り粃七石五斗を示し、其の最高は實に九石に達するものさへある。其の増進餘地の多きことを知るに足るであらう。



移住民に對する保護及獎勵 當社の行ひ來りし移住民に對する保護及獎勵施設の概要は左の如きものである。

(イ) 種苗肥料農具等の貸付 農業上必要な種苗、肥料及改良農具等は、移住民の希望に應じ低利又は無利子にて貸付し、生産の増殖改良に資せしめてゐる。

(ロ) 農事の指導 農事講習會又は講話會を開催し、又社員を派遣して實地指導の勞を執らしめ或は印刷物を配付し常時營農上の注意を與ふると共に、生産物の販賣斡旋を爲し、或は移住民組合、産米改良組合の成立を促進せしむる等種々の指導を加えてゐる。

(ハ) 移住民子弟の教育 移住地は成るべく子弟教育の便宜なる土地を選択すべき方針なるも、其の設備の未だ充分ならざる地方には力めて學校組合の組織を促し設備費或は維持費等を補助して其の成立維持を圖り、或は學校所在地より遠隔せる移住民の子弟の爲に特に兒童預り所を設置し、宿泊費を補助して勉學の利便

を與へてゐる。

(ニ) 衛生設備 移住地に囑託醫を置き、或は公立病院と交渉し無料診察又は藥價割引の方法を講じ、或は補助を與へて井戸を掘鑿せしむる等常に保健上の保護をしてゐる。

(ホ) 精神上的慰安 社寺の建立に對して寄附を爲し、或は僧侶に依頼して法會、法話會等を開催し、精神上的慰安を與へその教化に努めてゐる。

(ヘ) 救濟事業 水旱害其の他不慮の災禍を蒙り救濟を必要とする場合には、金品の貸付又は給與を爲し生活の安定をも計つてゐる。

(ト) 優良移住民の特待 移住民中成績優良にして一般農民の模範たるべきものは優良移住民として之を銓考表彰し、土地の割當増加又は種別變更等特別の待遇を爲し、成績の向上に資することにしてゐる。

移住民の現状 移住民は何れも生命財産の安固を得て逐年其の福祉を増進し



永住土著の念益々鞏固となり其の地に安住してゐる。其の状態は次に述ふることにする。

(イ) 移住民の分布状態 昭和六年十二月末現在に於ける移住民の分布及割當地面積を左に掲ぐる。

道 別	移 住 民		田 割	畑 當	地 計
	第一種	第二種			
京畿道	五六戸	一〇七戸	一、五〇町	三五町	一、八六町
忠清北道	一四戸	一戸	三九町	九町	四八町
忠清南道	二六戸	三九戸	七三町	三六町	七五九町
全羅北道	四八戸	八七戸	一、四八町	六六町	一、五五四町
全羅南道	六二戸	八七戸	一、五二町	二四町	一、六四五町
慶尙北道	四〇戸	二六戸	八九町	一〇六町	一、〇〇一町
慶尙南道	六五戸	八三戸	一、三七町	一六二町	一、五四〇町
黄海北道	三八戸	一四戸	一、五三町	八七町	一、六二〇町
平安北道	五戸	一戸	一三町	一町	一四町
計	六三戸	一五〇戸	一、五〇町	三五町	一、八六町

江 原 道	咸 鏡 南 道	合 計
一	八	三、三四
一	三	五八〇
二	二	三、九二
五	三	九、二八
一	七	九七
五	四	一〇、〇七

(ロ) 農事の成績 移住民の多くは米作本位にして進歩せる耕種、肥培をなし、收穫調製の改良を圖り傍ら養蠶其の他の副業に従事し著しき成績を挙げ、其の結果は延いて近隣の鮮農に多大の刺戟を與へ、之を模倣するもの漸く多きを加へ、米作の改良及養蠶其の他農事上に好影響を與へたることは特筆に値する。而かも移住民又は附近鮮農の生産米は、之を移民米と稱して市場に於て特に歓迎せられてゐる。叙上の如き當社移住民の好成績が朝鮮農村の開發に貢献せることの多大なるはいふ迄もない。

當社移住民中連年獻穀田奉耕の恩命に浴するものを出して居るのも決して偶然ではないが、此等は常に奉耕移民の名譽たるのみならず、延いて産米奨励の原動



力となることは多言を要せぬ、殊に大正十四年中大日本農會總裁宮殿下より農事功勞者として、移住民六名に對し表彰せられたるが如きは、如何に其の成績の良好なるかを知るに足るであらう。

(ハ)生活の状態 移住當初に於てこそ風土の變化、言語、習慣の相異等より一種の不安を感じ望郷の念を起したるものもあらう、されど在住年餘漸く環境に馴れ鮮人に接近して相融合するに至れば、終には第二の故郷たるが如き念を生じて其の耕耘を楽しむに至るのである。殊に確實に經濟上にも餘裕を生じ生活の安定を得ることは内地在住當時の比でなく、現に田地を買収して益々殖財し、或は地方の名譽職となり、人々の尊敬を受くる等其の例は甚だ多いのである。

(ニ)移住民の感化 前に農事の成績の中にも述べたるが如く、其の鮮農に及ぼせる感化力の大なることは見逃がしてはならない、左に其の概略を擧げて見る。

A 農事上の影響 農耕上の改良種子の撰擇、正條植の厲行、進歩せる農具の使用

施肥、除草害虫驅除、乾燥調製の方法等移住民營々活動の實況は不知不識の間に鮮農をして其の利を悟らしめ、一般農事の改良發達を促進せしめてゐることは多大である。

B 交通及經濟上の影響 移住に依り其の地方の交通通信の便宜を増し、又衛生思想の普及、諸種社會上の施設を見るに同時に、移住民に依る營農資金及農事準備金等が地方に流入して、間接に鮮農の金融を助け、經濟上の好果を齎らし地方の繁榮を増進してゐる。

C 風教上に及ぼせる影響 移住民が子弟の教育に努力するの良風は、鮮農の向學心を喚起せしめ、又其の勤勉力行は、從來怠惰の風ありし鮮農に刺戟を與へて之を覺醒せしめ、勤儉の美風を振興し、責任觀念を助長し、公共心を啓發する等地方風教に好影響を及ぼせることも尠少ではない。

D 内鮮人の融和 言語、風俗、習慣等の相異に依り當初は鮮人農業者との感情兎



角面白からざるものありしも、漸く年所を経るに従ひ次第に融和して渾然一體となり、隣保相助け慶弔を共にする等著々共存共榮の實を擧げてゐる。

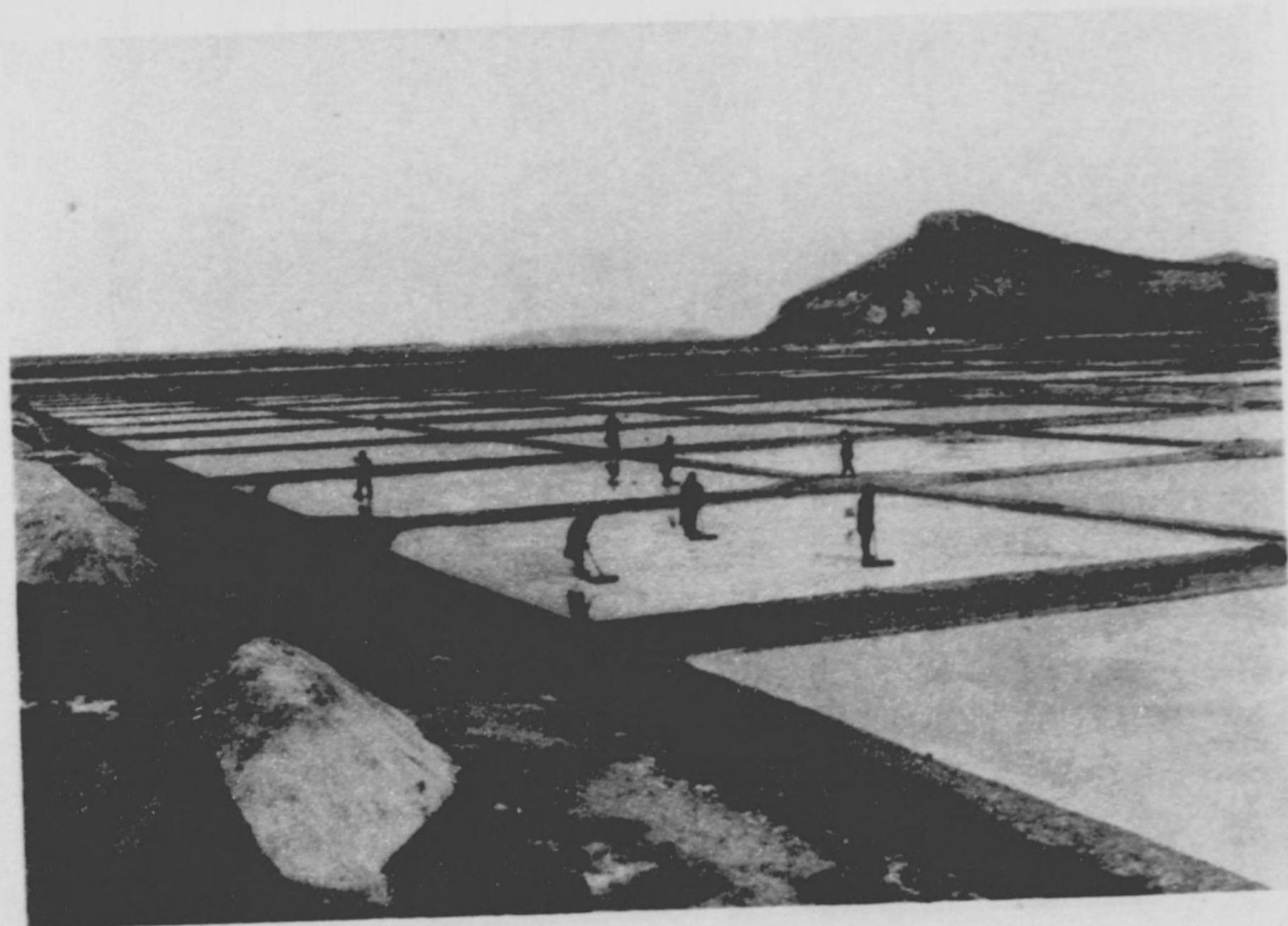
(六) 製鹽事業

人口の増加と化學工業の進歩は鹽の需要を増加し、内地及朝鮮の生産のみを以てしては之を充たす能はざるに至り、外鹽の輸入を仰ぐの外なきは誠に憂ふべきことである。

當社は關東州天日製鹽地の調査に著眼し、大正七年其の有望なるを認め、たのて爾來實地に就きて適地を物色し、大正九年鏡子窩を中心として干潟地二千五百町歩の貸下を出願し、同年其の許可を受け、尋で大正十年登沙河の河口を挟みたる干潟地一千町歩に對し、貸下を出願し、翌十一年其の許可を得たるを以て、實地設計調査の歩を進め事業に著手したのである。

(イ) 登沙河鹽田 干潟地一千町歩中製鹽に適合せる六百町歩を選び、先づ登沙河

(里岩往内管店支城京) 落部民住移



(内管店支連大) 況狀業作田鹽部西河沙登



西部の二百五十町歩に對し、大正十二年四月新設計に依りて起工し同十二月工事を竣り、翌春より内部の整理を爲し採鹽に著手したるに地勢、土質共に良好にて相當の成績を挙げ、昭和六年度に於て一千二十七萬餘斤の鹽を得たるが、登沙河東部の三百二十一町歩に對しては大正十三年三月起工し同十五年中に内部の構造を完成し、昭和二年度より採鹽に著手して昭和六年度に於ては九百三十三萬餘斤の採鹽を爲したのである。前記兩鹽田が熟地となりたる曉には裕に六千萬斤を採鹽し得る見込である。

(ロ) 龜子窩鹽田 當初の計劃は鹽田二千五百町歩を築造し、且生産鹽搬出の爲に龜子窩に築港の設備を爲すの方針なりしも、需給の關係環境の状態等に鑑み其の後規模を變更して、先づ開設の最も容易なる清水河地先の六百餘町歩を第一期事業として開設することとし、既に其の設計に著手したのである。

(ハ) 製鹽試驗 關東廳の慫慂に依り大正十一年より旅順港内楊樹溝の地を相し、



従來の製鹽法に改良を加ふべき製鹽試験を目的とし、新規なる木盤式製鹽法に依り品質改善及收支状況等に關する試験を行ひ、其の成績を關東州内の製鹽業者の参考に資したのである。

(七) 護謨栽培事業

南洋方面に於ける投資及事業經營の爲め、社員を派遣し實地を調査せしめたる結果、昭和五年七月馬來半島、ジョホールバル州(一部)、ククブ州に跨るに於て五千九百二十三英反の土地を買收し、護謨栽培の目的を以て差當り既成林の管理維持を圖ると共に芽接優良樹園造成の爲小面積の開墾を行ひつゝあるのである。

三、産米増殖事業

朝鮮總督府の計劃に係る産米増殖事業は、大正十五年度以降十四箇年間に實行の計劃にて、其の綱要は三十五萬町歩の土地改良及施肥其の他の農事改良に依りて、

玄米年産額八百二十餘萬石の増收を得むとするものである。昭和四年度に於て一部計劃の變更を見たるが之を細別すれば左の通りである。

(一) 事業計劃の梗概

種別	面積	増收	
		石當	計高
灌溉改良	一九五,〇〇〇町	一〇五〇	二,〇四七,五〇〇石
地目變換	九〇,〇〇〇	一八五〇	一,六六五,〇〇〇
開墾	三二,九〇〇	一五五〇	五〇五,二二五
干拓	三三,〇五〇	一五五〇	五一二,一七五
計	三九〇,〇〇〇	五五〇	四,七七一,〇〇〇
灌溉の便ある水田	三九〇,〇〇〇	二五〇	二,一四五,〇〇〇
灌溉の便なき水田	九七五,〇〇〇	二二五	二,二八七,七五〇
農事改良のみを施行するもの	七,五〇〇	八二五	六二,八七五
陸稻	七,五〇〇	二二五	三三,二五〇
栽培法改良	一七,八〇〇	二二五	三,四四七,八七五
計	一,三九〇,三〇〇	二二五	三,四四七,八七五



總計	1,740,300	8,177,855
----	-----------	-----------

(二) 事業資金及其の構成

本事業に對する所要資金及其の構成は左の通りである。

(イ) 事業資金總額 三二五、三三四、〇〇〇圓

内

土地改良資金 二八五、三三四、〇〇〇圓

農事改良資金 四〇、〇〇〇、〇〇〇圓

(ロ) 事業資金の構成

内

土地改良補助金 六五、〇七〇、〇〇〇圓

企業者調達金 二二、〇六七、〇〇〇圓

政府低利資金 一一九、〇九八、五〇〇圓

當社  
殖銀社  
調達金 一一九、〇九八、五〇〇圓

(三) 當社の貸付事業資金

前記事業資金中當社の昭和六年十二月末迄の貸付高を左に掲ぐる。

區別	昭和六年度中貸付高	昭和六年度末現在高
土地改良資金	一一、七八六、五七五 <sup>四</sup> 九八	二五、七七八、三〇二 <sup>四</sup> 八九
農事改良資金	二、六二三、二四〇 <sup>四</sup> 七九	一、三八一、五〇四 <sup>四</sup> 五六
合計	一四、四〇九、八一六 <sup>四</sup> 七七	二七、一五九、八〇七 <sup>四</sup> 四五

(四) 當社の事業

當社は本計劃の實行に参加し、三十五萬町歩の内十萬町歩の土地改良事業を代行すること、なりたる爲、其の實行機關として大正十五年七月朝鮮京城に土地改良部を設置し、爾來鋭意其の促進を圖り來つたのであるが、昭和六年七月朝鮮土地改良會社と協定の上、代行業務は之を同社に引継ぎ、當社は現に受託代行中の業務



の完了に従ひ之を廢止することとしたのである。而して昭和六年十二月末に於ける受託代行業務を擧ぐれば左の通りである。

(イ) 水利組合事業

代行業務區別	水利組合數	面積	事業費
測量設計	三三二	六九、六一七 <small>町</small>	(概算) 五〇、五六〇、〇〇〇 <small>円</small>
工事監督	二五	二八、五四三	一八、七二五、二六一
事務	一	四三八	二三〇、〇〇〇

(ロ) 個人事業

代行業務區別	地區數	面積	事業費
踏査	二	二六九 <small>町</small>	(概算) 一九九、五〇〇 <small>円</small>
測量設計	三三	一一、五二二	(概算) 一三、八五〇、〇〇〇
工事監督	一〇	九六五	三二二、二八八

計算

第二十六期貸借對照表

(昭和六年十二月三十一日現在)

資 産 (借 方)		負 債 (貸 方)	
種類	金額	種類	金額
拂込未済資本金	一五、〇〇〇、〇〇〇 <small>円</small>	資本	五〇、〇〇〇、〇〇〇 <small>円</small>
債券價格較差	九、一七九、三九七 <small>円</small>	欠損補填準備金	七八、〇〇〇 <small>円</small>
貸付金	一三六、六七九、六〇七 <small>円</small>	配當平均準備金	一、〇八七、五〇〇 <small>円</small>
代理貸付金	一五、六〇〇 <small>円</small>	債券發行高	一八五、一五一、八七六 <small>円</small>
株券及債券	一八、六八八、三三八 <small>円</small>	定期預り金	七、六六三、二六三 <small>円</small>
特種事業資金	一一、〇六、七四四 <small>円</small>	借入金	九、四六五、九七三 <small>円</small>
預金	三、六四〇、九五五 <small>円</small>	地所建物讓渡受高	六、二〇七、九七三 <small>円</small>
地所	二九、七九〇、二八四 <small>円</small>	假受	一、四七〇、四六二 <small>円</small>
山林	二、四一九、九三〇 <small>円</small>	未拂	二二、五八九 <small>円</small>
建物	六、五三六、一七三 <small>円</small>	爲替整理金	七五四、一八八 <small>円</small>



總計	金受未假興物地工林農機	金取收拂業業品所建物產產產械	銀手形金金費高物護渡高物物物器
二六四、二七九、八三五、八三	八〇八、八七、八三	三六四、〇〇〇〇	二、五六、五二、二四
四、七〇七、七三	九五七、五八、九七九	五四一、一四〇、三〇	二、二五、五二、二四
二六四、二七九、八三五、八三	四〇八、八七、八三	三六四、〇〇〇〇	二、五六、五二、二四
總計	總計	總計	總計
二六四、二七九、八三五、八三	二六四、二七九、八三五、八三	二六四、二七九、八三五、八三	二六四、二七九、八三五、八三
代理貸付保證	契約保證金	身元保證金	退職給與基金
一五三、六〇〇、〇〇	一七、七九、六、六四	三六〇、三五八、六三	四六、一八四、九二
本支店未達勘定	前期繰越金	前期純益金	當期純益金
二、六八七、七七	一五七、三六〇、三二	八〇、一二〇、一〇	二、六八七、七七
總計	總計	總計	總計
二六四、二七九、八三五、八三	二六四、二七九、八三五、八三	二六四、二七九、八三五、八三	二六四、二七九、八三五、八三

第二十六期損益計算書 (自昭和六年七月三十一日 至 同年十二月三十一日)

種類	利益		損失	
	種類	金額	種類	金額
利益	總益金	九、〇四、七四六、七五	總損金	八、二九四、六四、六五
	貸付金利息	四、七三、七六九、八三	報酬及給料	四〇〇、五六九、七二
	株券及債券收入	四九五、三三九、二九	雜給	一五九、七五〇、八三
	特種事業收入	六九、〇六七、八〇	退職給與費	一三五、四四、八二
	預金利息	五、二九、三五	旅費	一〇三、六八、九五
	地所收入	二、五〇六、一四二、二〇	諸稅	五四九、九四三、二〇
	山林收入	二、二〇四、二二	修繕費	三、六三、一六
	建物收入	二、五、四一、九五	備品及消耗品費	五三、三七、八八
	地所建物讓渡收入	四七、四九、七六	通信及運搬費	一四七、〇三七、六五
	物品貸付收入	六二、三四五、八六	雜費	二八九、四四、四五
損失	總損金	八、二九四、六四、六五	報酬及給料	四〇〇、五六九、七二
	報酬及給料	四〇〇、五六九、七二	雜給	一五九、七五〇、八三
	雜給	一五九、七五〇、八三	退職給與費	一三五、四四、八二
	退職給與費	一三五、四四、八二	旅費	一〇三、六八、九五
	旅費	一〇三、六八、九五	諸稅	五四九、九四三、二〇
	諸稅	五四九、九四三、二〇	修繕費	三、六三、一六
	修繕費	三、六三、一六	備品及消耗品費	五三、三七、八八
	備品及消耗品費	五三、三七、八八	通信及運搬費	一四七、〇三七、六五
	通信及運搬費	一四七、〇三七、六五	雜費	二八九、四四、四五
	雜費	二八九、四四、四五		



受託土地改良	一〇六、八八二・三	雜損	一三三、一九五・二
事業收入	五〇一、九五・三六	仕拂利息	五、三八〇、一七五・〇〇
雜收入	一五七、三六〇・三二	諸償却金	九二〇、五八九・四九
前期繰越金		當期利益金	九六七、四八二・四二
總計	九、二六二、一〇七・〇七	總計	九、二六二、一〇七・〇七

◎利益金處分

一金八拾壹萬百貳拾貳圓拾錢也

當期純益金

一金拾五萬七千參百六拾圓參拾貳錢也

前期繰越金

合計金九拾六萬七千四百八拾貳圓四拾貳錢也

當期利益金

處分內譯

一金六萬五千圓也

缺損補填準備金

一金壹萬七千圓也

配當平均準備金

一金四萬圓也

役員賞與金

一金四拾八萬圓也

配當金(政府持株ヲ除キ  
年三分ノ割)

但シ舊株壹株ニ付金七拾五錢新株壹株ニ付金參拾七錢五厘ノ割

一金參拾六萬五千四百八拾貳圓四拾貳錢也

後期繰越金



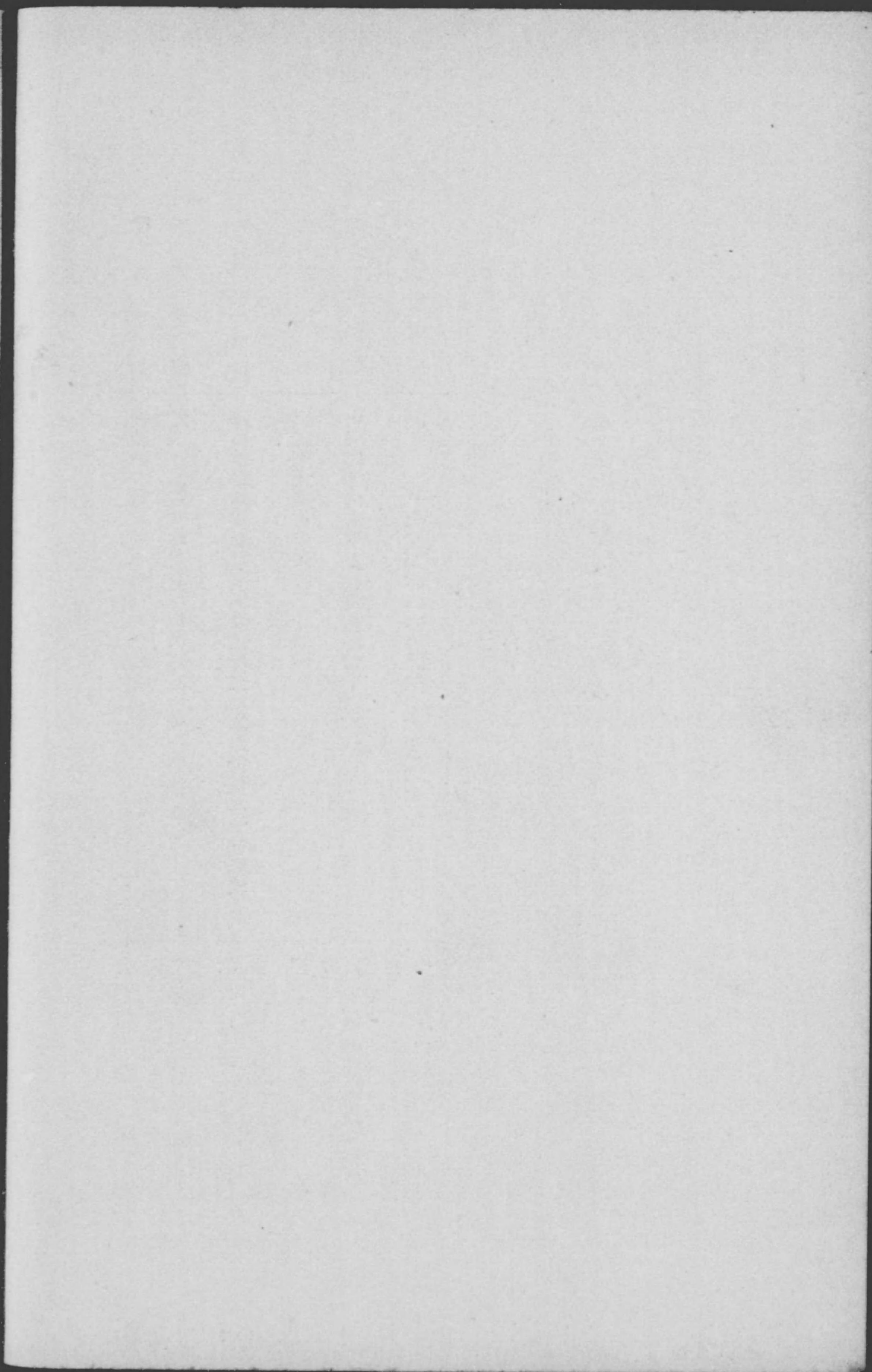
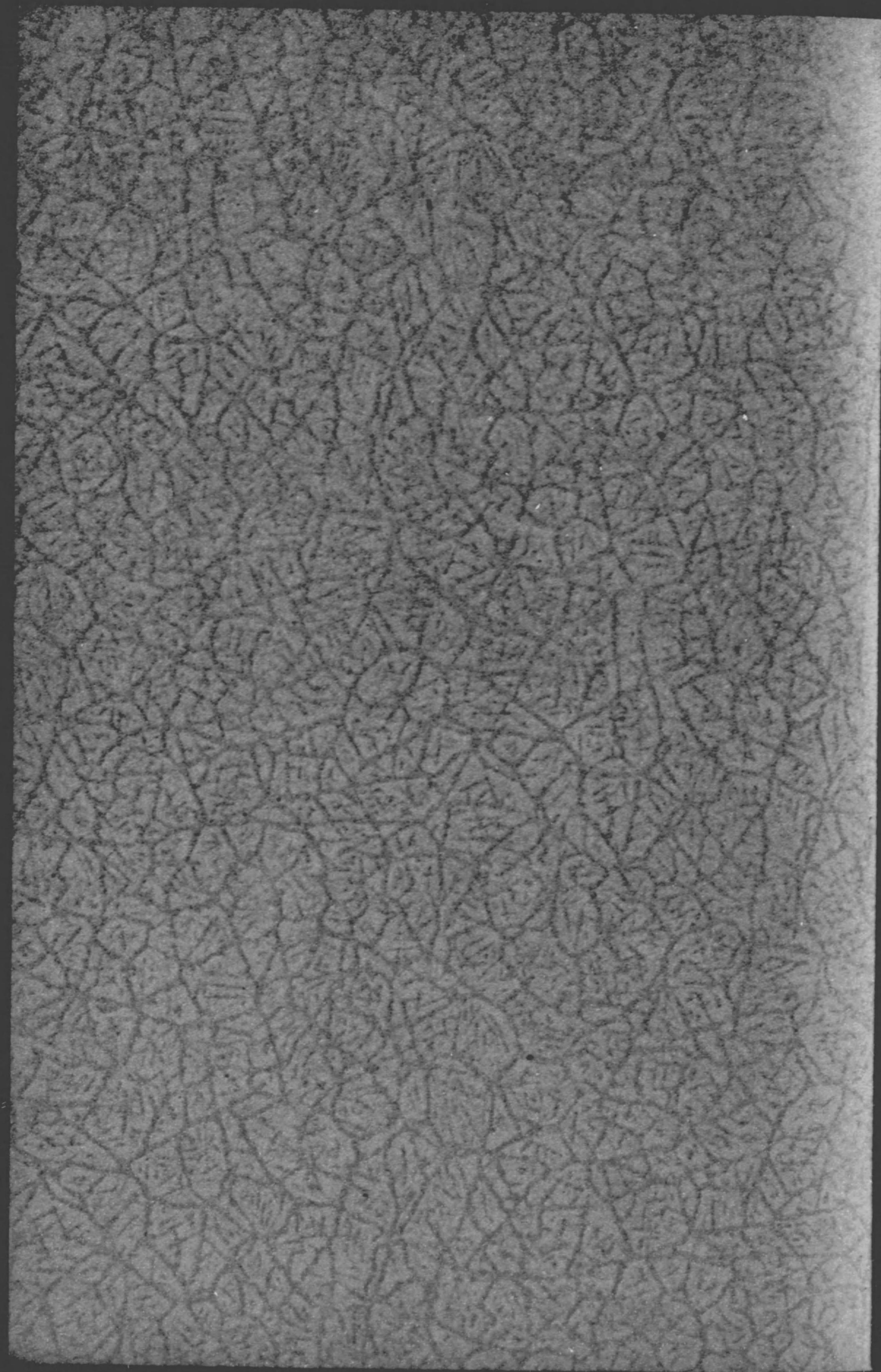
營業所所在地及管區

店名	所在地	管區
本店	東京市麹町區內山下町一丁目一番地	朝鮮及間島
朝鮮支社	朝鮮京畿道京城府黃金町二丁目百九十五番地	慶尙南道
釜山支店	同慶尙南道釜山府大廳町二丁目二十四番地ノ二	慶尙北道
大邱支店	同慶尙北道大邱府東門町四番地	全羅北道
裡支店	同全羅北道益山郡裡里邑裡里六百五十八番地ノ三	全羅南道
木浦支店	同全羅南道木浦府本町二丁目六番地	忠清北道
大田支店	同忠清南道大田郡大田邑本町二丁目八十番地	忠清南道
京城支店	同京畿道京城府黃金町二丁目百九十五番地	江原道(淮陽郡、通川郡、高城郡、襄陽郡ヲ除ク)
元山支店	同咸鏡南道元山府京町三十二番地	江原道ノ内(淮陽郡、通川郡、高城郡、襄陽郡ヲ除ク)
沙里院支店	同黃海道鳳山郡沙里院邑駒泉里四百四十二番地	咸鏡南道、咸鏡北道
平壤支店	同平安南道平壤府黃金町三番地	黃海道

間島支店	滿洲國吉林省間島龍井村朝鮮官舍通
奉天支店	同奉天省奉天新市街浪速町三十一番地
哈爾濱支店	同吉林省哈爾濱埠頭區道裡地段大街第二十三號地
大連支店	同關東州大連市近江町二十番地
青島出張所	中華民國山東省青島館陶路第十六號
天津出張所	同河北省天津法租界二號路六十九號

吉林省間島  
 (但シ寬城子以北及關東州ヲ除ク)  
 滿洲(寬城子以北)  
 關東(具加爾湖)  
 山東(露領亞細亞以東)  
 關東  
 山東  
 山東省ノ内(濟南及津浦鐵道沿線ヲ除ク)  
 河北省(濟南及津浦鐵道沿線)







瀨味印刷所

4

7